

第2回 中部地方水供給リスク管理検討会 議事要旨

議事(1) 議事要旨(第1回検討会)の確認

第1回検討会(平成30年11月1日開催)の議事要旨を確認した。

議事(2) リスク管理の考え方(論点7・8)

「リスク管理の考え方」について、第1回検討会に続き意見交換を行った。

論点7) 水供給のリスク要因に対し、どのような施策で対応すべきか

論点8) 水供給のリスク要因に対する施策は、何に留意し組み合わせるべきか。

〈主な意見〉

- 危機時の対応策として地域間や用途間などの連携が重要だが、その連携をうまくかみ合わせ、機能させることが肝要となる。
- 渇水の場合は、地域間や水系間の連携、ダム群の連携は有効な施策ではないか。また、河川から取水できない場合に備え、都市部での貯留施設や排水の浄化処理・再利用も考えられる。
- 水の貯留・備蓄については、飲用と他用とを分けて考えてはどうか。個人的な備えに当たるのかもしれないが、中期的な断水等からの待避方策を考えておくことも必要ではないか。
- 水のストックを積み重ね、渇水への安全・安心を高めることが最も重要だと考えられる。50年～100年に1回の規模の渇水に対しても、耐えられるよう計画すべき。
- 将来の降雨や融雪の傾向に応じた、ダム運用の適合度を確認してはどうか。その際の評価は、単年貯留ではなく経年貯留で行う必要がある。また、近年の洪水被害等を踏まえ、利水容量を洪水調節容量に転換する施策もあるが、適用に当たっては、利水の面で将来的にも大丈夫なのか留意する必要がある。
- 危機時の対応策を一般論で扱うことは難しい。水供給全体の構造を把握した上で、リスク要因の種類や外力、被害に対し、エンドユーザーの立場から考えることが望ましい。
- 施策の具体化に当たり、目的として「リスクを下げる」と「有事の際の対応」とに分けて考えてはどうか。施設計画でリスクへの安全度を上げるにしても、大規模災害など有事の際のシリアスな対応も考えていく必要がある。
- リスク対応では、「ハード的な限界をソフトで補う」という考え方が一般的となっている。ハードとソフトの具体的な組み合わせは、地域などの対象毎に固有の事情を踏まえ、検討することになる。

議事(3) 意見(第1回検討会)を踏まえた論点整理(論点1~6)

「リスク管理の考え方」について、第1回検討会の意見を踏まえた論点整理と今後の留意点を了承し、補足の意見交換を行った。

〈主な意見〉

- 気候変動の影響として、猛暑を考えなくてもよいのだろうか。尋常ではない高気温に達することが起こり得る。
- 気候変動や地盤沈下などを影響・被害増大の素因として考慮するにしても、それが無い現状において、大規模な地震や洪水等の誘因によりどのような影響・被害が生じるのかを検討しておく必要がある。〈第3回検討会の意見を反映し修正〉

議事(4) モデル水系の選定

検討方法の流れを確立するためのモデル水系について、意見交換を行い、矢作川水系を選定した。

〈主な意見〉

- 他水系への適用を考えると、水源施設のダムがある水系から選ぶべきではないか。
- 影響・被害のポテンシャルとして、水供給区域内の資産等がある程度大きい水系を選ぶべきではないか。
- 大濁水等による水供給・水利用への大きな影響が、実際に生じた水系から選んではどうか。
- 実施中の大規模事業がある水系では、検討の前提条件を複数設定することになるのではないか。